

令和4年度 長崎市立形上小学校 学力向上プラン

日本国憲法・教育基本法
学習指導要領
長崎県教育振興基本計画
長崎市第4次総合計画
長崎市教育振興基本計画

学校教育目標

考え判断し自ら行動する、やさしく
かしこく たくましい 形上っ子の育成

○地域の特色・地域の願い
○児童の実態や願い
○保護者の期待・願い

めざす児童像

<教師の指導力向上>

○学習指導要領が求める授業実践
○児童の課題に応じた授業改善
○きめ細かな児童理解と指導

○考える子 ○がんばる子
○たくましい子 ○磨き合い優しい子

<本校の重点課題>

○学力向上の実現
○特別支援教育の充実
○自信と実践力を備えた児童育成

学力向上の重点目標

★児童の実態（学習に向かう姿勢・学力調査の結果）をもとに、基礎基本の力の向上と主体的な学びの習得を目指す。
★授業改善（簡潔・的確・明瞭）やチャレンジタイムと家庭学習が連動した取組を実践し学力調査の平均点に近づける。各種学力調査における各教科については平均を3ポイント以上向上させる。

学力向上の指導の重点

- ① 授業において、「読解」を意識した指導
- ② チャレンジタイムと家庭学習の連動と複数指導体制での指導
- ③ 特別支援教育の視点からの授業実践
- ④ 学級版「学力向上プラン」を作成し、個別支援の充実
- ⑤ Chromebook の日々の活用

授業改善

* 「めあて」と「まとめ」のある問題解決的な指導過程を踏えた授業展開を行う。（そろえる）

長崎県読解力育成プランの活用

- ・読み取りの技能を指導する。
- ・叙述に即して読み取らせ、発言にも根拠をもたせる。
- ・文章だけでなく表、グラフ図からも読み取らせる。

→ 単元末テスト平均85点以上

* 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- ・追究する課題の設定
- ・課題解決への見通しの理解
- ・一問一答に陥らない目的ある交流の実施(広げる・深める)

* 支援を要する児童への個別指導
→ 学びの定着・主体的な学び

チャレンジタイムの充実

- 全学年において複数体制で指導する（実施率100%）
- 週2回の実施
→ 家庭学習と連動した問題の提示

学力調査の結果及び平素の児童の実態

	国 語	算 数
1年	・拗音、促音、撥音などの基本的な文字の記述と文意を捉えた読解が課題	・たし算、ひき算の繰り上がり繰り下がりや数の合成、分解が課題
2年	・漢字の定着と活用する力及び文章を読み取る力が課題	・題意を捉えた立式やかさ、長さなどの単位関係の理解が課題
3年	・漢字や言葉のきまりが定着してきた。 ・前後の文脈に合う文章を書くのが課題	・時刻と時間、長さの単位換算や題意を捉えた立式とこの計算が課題
4年	・漢字の習得及び言葉のきまりは定着している。 ・物語文の読解や聞き取りに課題がある。	・基礎・活用とも身につけている。 ・「時刻と時間」の問題に課題が見られる。
5年	・「話す・聞く」や漢字の習得は、少しずつ向上しているが活用においては、言葉の量や質を高めていくことが課題。	・二極化が著しい。算数科の基礎の徹底が必要。とくに、「図形」「変化の関係」と記述式の問題に課題有。
6年	・言語文化、言葉の特徴や使い方に関しては成果が見られたが「書く活動」において、文書全体の構成や書き表し方などに課題が多い。また、漢字の習得などの基礎的な力が二極化している。	・基本的な計算や公式の習得活用に課題がある。とくに二極化への対応が必要。その他「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」が課題。

■学級担任によってより詳細な分析を踏まえて作成した学級別の「学力向上プラン」に基づいて取組を実践し、課題の領域（観点）について、+3ポイント以上の上積みを図る。

■アンケート「分かりやすい授業である」（90%以上）
「家庭での学習習慣が身に付いている」（85%以上）を目指す

学力向上プランの活用

- 各種学力調査の結果を踏まえた学級ごとの「学力向上プラン」を作成し実践する。
- 学期ごとに見直し修正する。
→ 授業参観・面談で進捗状況を確認する。

校内研修の研究への取組

- 主体的に学びに向かう子どもの育成
→ 対話スキルの向上
→ 習熟の時間の確保

生活習慣の形成・家庭学習の充実

- 生活リズムのある規律正しい生活習慣の形成
→ 家庭学習の手引きの作成（家庭への要請）
「あはは運動」の奨励
- 学習内容の定着を図る工夫
家庭学習→
eライブラリーの活用

その他

- * 週2回の「読書タイム」
- * スクールサポーターの活用
- * 寺子屋事業による放課後学習

「P→D→C→A」サイクルを生かした方策の改善と目標の実現